

資料編

目次

I. 関連分野の現状及び政策動向	1
II. 路線バスの運行内容変遷	3
III. 公共交通に関する市民や関係者の意向等	4
1 市民アンケート調査結果に基づく住民の意向や利用実態	4
2 予約制乗合タクシー「上林線」アンケート調査結果に基づく住民の意向や利用実態	11
3 公共交通に関わる関係者の現状・意見・意向等	14

I. 関連分野の現状及び政策動向

公共交通に関連する各分野の現状や政策動向は次に示すとおり。

＜都市計画分野（都市整備課・建設課）＞

- 3つの市街地（東部市街地・中央市街地・西部市街地）の連携が課題。
- 立地適正化計画も今後策定する必要がある。
- 予約制乗合タクシーがあることを地元でも知らない人がいる。
- 東温スマート IC が令和 5 年度末に供用予定。

＜福祉分野（長寿介護課・地域包括支援センター）＞

- サロンへの参加者が減少傾向にある（高齢化による身体機能の衰えや新規利用者の未開拓が主な要因と考えられる）。
- サロンへの移動支援の仕組み（ボランティア）が存在。
- ドア to ドアで移動できる方がいいが、タクシーは金銭的負担が大きいとの声がある（乗り合わせを希望する声もあるが、マッチングの仕組みが無い）。

＜交通安全分野（危機管理課）＞

- 「東温市運転免許返納サポート事業」を平成 29 年 9 月から開始。
- 後期高齢者を中心に、令和元年度は 181 人が上記事業を活用し免許返納。
- 返納特典は、鉄道や路線バスの沿線居住者の場合 IC い〜カード、それ以外の場合はタクシー利用助成券を選択される場合が多い。

＜教育分野（学校教育課）＞

- 学校まで距離があり、公共交通を利用して通学する児童・生徒は、「東温市遠距離通学助成金交付要綱」に基づき、市が費用を助成。
- 令和 2 年度は山之内地区 2 人（森松横河原線を利用し北吉井小へ通学）、松瀬川地区 5 人（松瀬川線を利用し川上小へ通学）、滑川地区 1 人（滑川線を利用し東谷小へ通学）が上記制度を利用。
- 上記制度は中学生も対象だが、中学生はみな自転車で通学している。
- 高校生は、東温高校や松山市の南東部に立地する高校に通学する場合、自転車通学が多い一方、松山市内のその他の高校に通学する場合は、松山市駅まで鉄道でそこから自転車で通学することが多い。

＜移住定住分野（企画政策課）＞

- 近年は志津川地区の分譲地への転入が多く、市全体で転入超過となっている。
- 転入者は 20～40 代の比較的若い人（単身、核家族）が多い。

＜観光分野（産業創出課）＞

- 新型コロナの影響で「坊っちゃん劇場」や「東温市ふるさと交流館さくらの湯」等の観光施設は入館者は減少しているが、3密を避ける観光として自然景勝地への観光客は増えているように感じる（菖蒲堰や滑川溪谷では路上駐車や道路混雑で地元住民から苦情が発生）。
- 公共交通の便数の少なさや案内・表示等におけるインバウンド対応の遅れにより、公共交通を利用した観光の推進が難しい（二次交通の問題）。
- 東温市に来る人に、公共交通と合わせて一歩踏み込んだ情報提供ができるのではないか（駅舎にデジタルサイネージを設置して市の観光PRを行うなど）。
- 自家用車での移動が困難な世代をターゲットにした、公共交通を利用した観光ツアーを実施してはどうか。
- タクシーやレンタサイクルを観光に活用してはどうか。
- 様々な分野でデジタル化が進む中、観光分野でもICTを活用した誘客が必要（Ma a Sなど）。

II. 路線バスの運行内容変遷

		H21 (2009) 年5月～ H23 (2011) 年9月	H23 (2011) 年10月～ H26 (2014) 年9月	H26 (2014) 年10月～ R2 (2020) 年10月	R2 (2020) 年11月～
川内線	運行日	毎日	毎日	毎日	毎日
	運行便数	【平】 川内方面発29便 川内方面行き32便 【土】 川内方面発27便 川内方面行き29便 【日祝】 川内方面発24便 川内方面行き25便	【平】 川内方面発30便 川内方面行き32便 【土】 川内方面発28便 川内方面行き30便 【日祝】 川内方面発27便 川内方面行き28便	【平】 川内方面発30便 川内方面行き32便 【土】 川内方面発28便 川内方面行き30便 【日祝】 川内方面発27便 川内方面行き28便	【平】 川内方面発29便 川内方面行き28便 【土】 川内方面発27便 川内方面行き28便 【日祝】 川内方面発27便 川内方面行き27便
	運行内容		・ さくらの湯発着便の増便	・ 湯谷口系統の廃止 ・ 川内グリーンタウン系統: さくらの湯経由なし	・ 終バスの繰り上げ ・ 減便
森松 横河原線	運行日	毎日	毎日	毎日	毎日
	運行便数	【平】 木地発6便 森松発6便 【土日祝】 木地発4便 森松発4便	【平】 木地発6便 森松発6便 【土日祝】 木地発4便 森松発4便	【平】 木地発6便 森松発6便 【土日祝】 木地発4便 森松発4便	【平】 木地発6便 森松発6便 【土日祝】 木地発4便 森松発4便
	運行内容				
拝志線	運行日	毎日	毎日	毎日	毎日
	運行便数	上林皿ヶ嶺登山口発1便 上林皿ヶ嶺登山口着1便	上林皿ヶ嶺登山口発1便 上林皿ヶ嶺登山口着1便	上林皿ヶ嶺登山口発1便 上林皿ヶ嶺登山口着1便	上林皿ヶ嶺登山口発1便 上林皿ヶ嶺登山口着1便
	運行内容				
梅本 ループ線	運行日	毎日	毎日	毎日	毎日
	運行便数	【平】 31便 【土】 28便 【日祝】 27便	【平】 31便 【土】 28便 【日祝】 27便	【平】 31便 【土】 28便 【日祝】 27便	【平】 18便 【土日祝】 16便
	運行内容				・ 終バスの繰り上げ ・ 減便
滑川線	運行日	月～土曜日	月～土曜日	月～金曜日	月～金曜日
	運行便数	【平】 海上発5便 海上着4便 【土】 海上発4便 海上着3便	【平土】 海上発5便 海上着4便	【平】 海上発5便 海上着4便	【平】 海上発5便 海上着4便
	運行内容		・ 東温市役所発着便の新設 ・ 土曜日の運行便数増	・ 土曜日運休	
河之内線	運行日	月～土曜日	月～土曜日	月～金曜日	月～金曜日
	運行便数	【平土】 白猪滝口発4便 白猪滝口着3便	【平土】 白猪滝口発5便 白猪滝口着4便	【平】 白猪滝口発4便 白猪滝口着4便	【平】 白猪滝口発4便 白猪滝口着4便
	運行内容		・ 東温市役所発着便の新設 ・ 運行便数増	・ 土曜日運休 ・ 平日減便	
松瀬川線	運行日	月～金曜日	月～土曜日	月～金曜日	月～金曜日
	運行便数	【平】 松瀬川発2便 松瀬川着2便	【平土】 松瀬川発4便 松瀬川着4便	【平】 松瀬川発3便 松瀬川着3便	【平】 松瀬川発3便 松瀬川着3便
	運行内容		・ 東温市役所発着便の新設 ・ 土曜日の運行開始 ・ 運行便数増	・ 土曜日運休 ・ 平日減便	
井内線	運行日	月～土曜日	月～土曜日	月～金曜日	月～金曜日
	運行便数	【平土】 井内北間発4便 井内北間着4便	【平土】 井内北間発5便 井内北間着5便	【平】 井内北間発3便 井内北間着3便	【平】 井内北間発3便 井内北間着3便
	運行内容		・ 東温市役所発着便の新設 ・ 運行便数増	・ 土曜日運休 ・ 平日減便	
上林線	運行日		月～土曜日		
	運行便数	-	【平土】 上林発4便 上林着4便	路線バスの運行を終了し、 予約制乗合タクシーを導入	予約制乗合タクシー
	運行内容		・ 新設		

III. 公共交通に関する市民や関係者の意向等

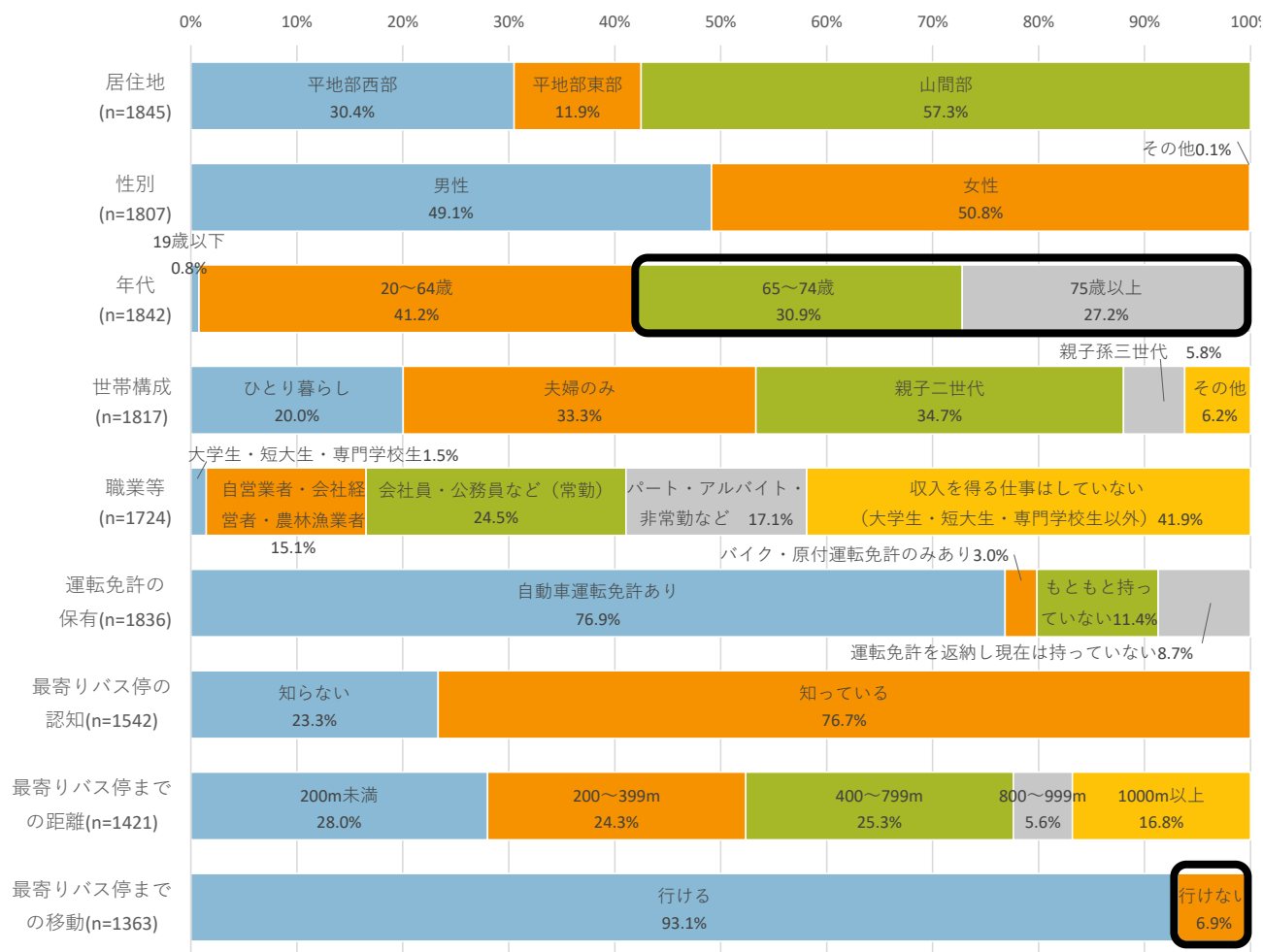
1 市民アンケート調査結果に基づく住民の意向や利用実態

公共交通の利用状況やニーズと、路線バスサービスに対する評価等を把握するため、住民を対象とするアンケート調査を令和2（2020）年9～10月に実施した。

種別	平地部	山間部
調査対象区域	平地部東部・平地部西部	左記以外の区域
調査対象者	対象区域内の無作為抽出した 1,794 世帯 * 2 名以上の世帯は、自家用車の運転に不安を感じている方や免許証を持っていないなど、なるべく普段から公共交通が必要な方（高校生以上 1 名）に回答を依頼	対象区域内の自治区に加入する全世帯 2,206 世帯 * 2 名以上の世帯は、自家用車の運転に不安を感じている方や免許証を持っていないなど、なるべく普段から公共交通が必要な方（高校生以上 1 名）に回答を依頼
調査期間	令和2（2020）年9月上旬～10月上旬	令和2（2020）年9月上旬～10月上旬
調査方法	調査対象世帯に調査票を郵送により送付し、郵送により回収	調査対象世帯に調査票を自治会長より配布し、郵送により回収
回収結果	回収率：44.3%	回収率：48.3%

(1) 個人属性

回答者の58.1%は65歳以上の高齢者である。最寄りバス停までは、6.9%が「行けない」と回答している。



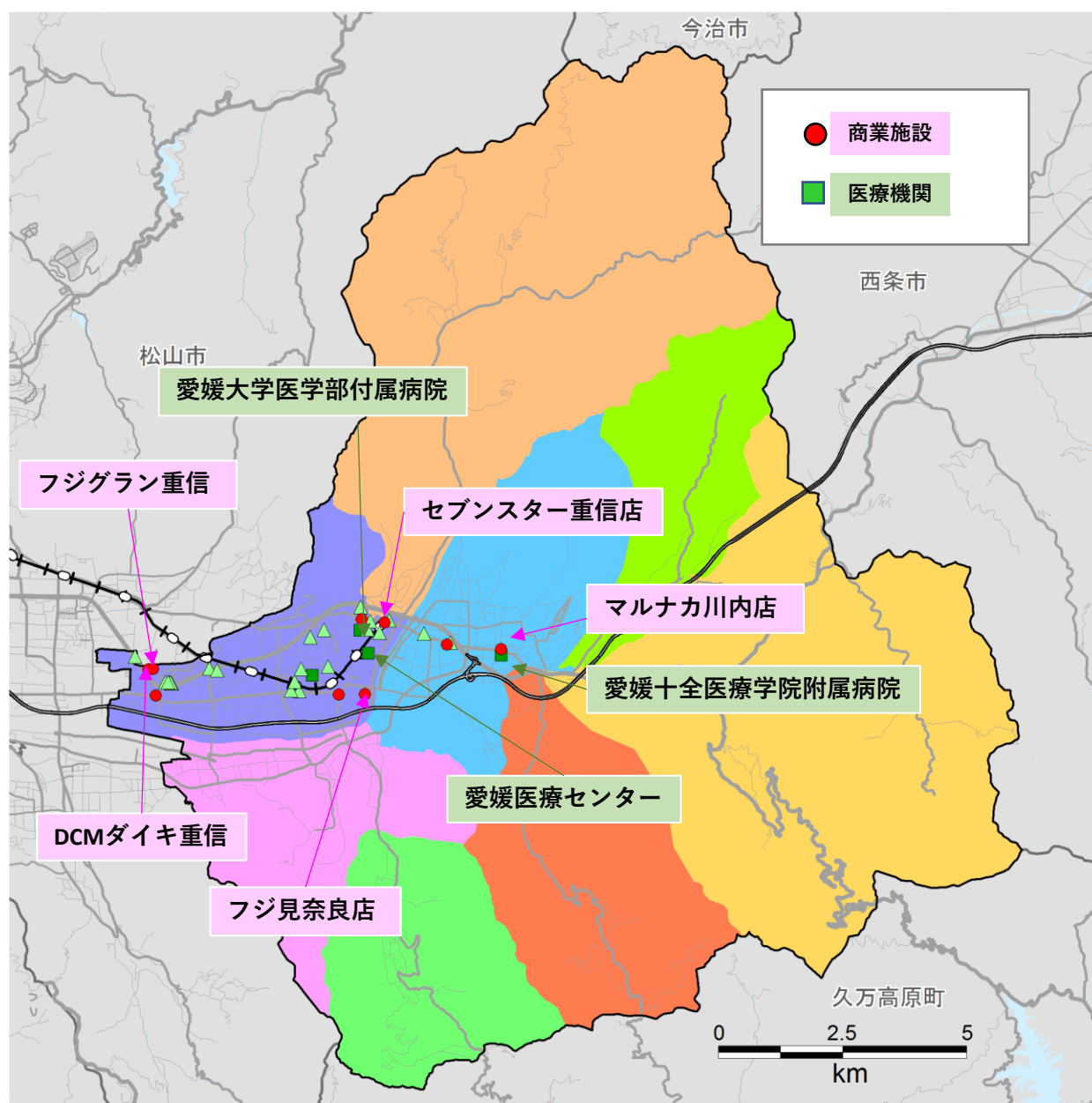
(2) 移動環境

「自分で運転できる車がない」かつ「送迎を気兼ねなく頼める人がいない」のは、全体の7.5%である。

全体 (n=1859)		自分で運転できる車が	
		ある	ない
送迎を気兼ねなく頼める人が	いる	32.7%	11.4%
	いない	20.7%	7.5%

(3) よく利用する医療機関・買物先・その他の施設

よく利用する医療機関・買物先として、平地部に存在する病院やスーパー等の商業施設が多く挙げられており、利用が平地部に集中している。



※回答率 10%以上の施設のみを掲載

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用頻度の変化

「以前より利用が減った」と回答した人の割合は「鉄道」(12.4%)が最も高く、以下「路線バス・予約制乗合タクシー」(7.4%)、「タクシー」(6.1%)となっている。

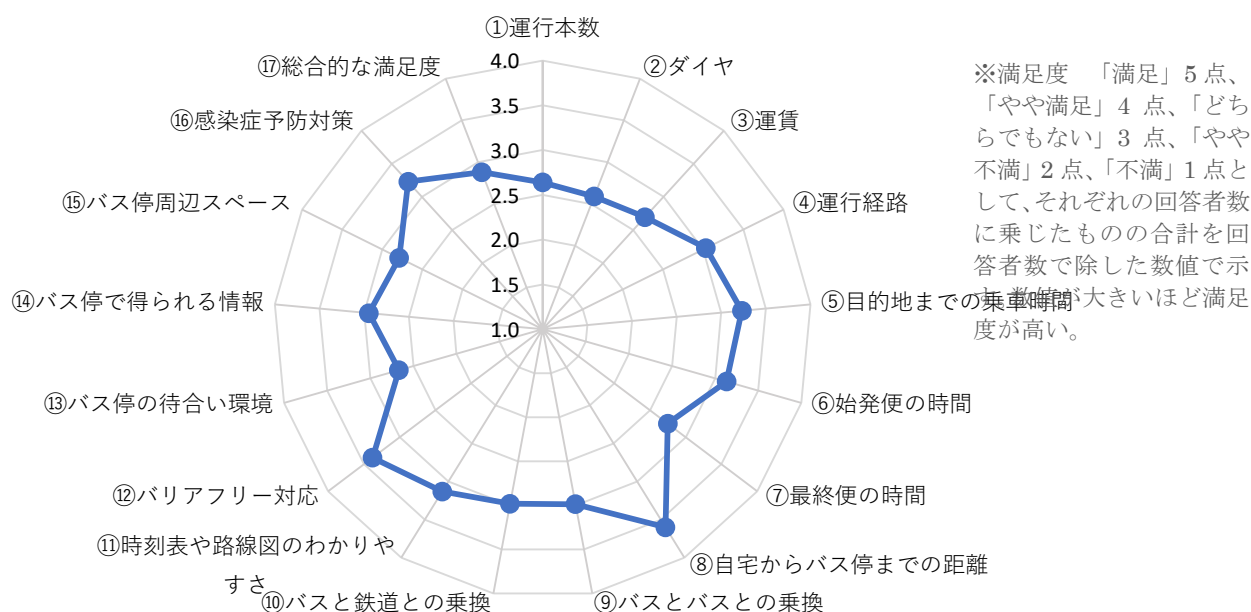
鉄道 (n=1859)	新型コロナ感染拡大の影響による利用頻度の変化			
	以前より減った	以前と変わらない	無回答	総計
現在利用あり	5.6%	7.1%	0.5%	13.3%
現在利用なし	6.0%	29.4%	39.5%	74.9%
無回答	0.8%	0.6%	10.4%	11.8%
総計	12.4%	37.2%	50.5%	100.0%

路線バス 予約制乗合タクシー (n=1859)	新型コロナ感染拡大の影響による利用頻度の変化			
	以前より減った	以前と変わらない	無回答	総計
現在利用あり	3.2%	4.5%	0.5%	8.1%
現在利用なし	3.5%	32.2%	43.2%	78.9%
無回答	0.7%	0.6%	11.6%	13.0%
総計	7.4%	37.3%	55.3%	100.0%

タクシー (n=1859)	新型コロナ感染拡大の影響による利用頻度の変化			
	以前より減った	以前と変わらない	無回答	総計
現在利用あり	2.8%	4.5%	0.4%	7.7%
現在利用なし	3.2%	31.9%	44.2%	79.3%
無回答	0.1%	0.6%	12.3%	13.0%
総計	6.1%	37.0%	56.9%	100.0%

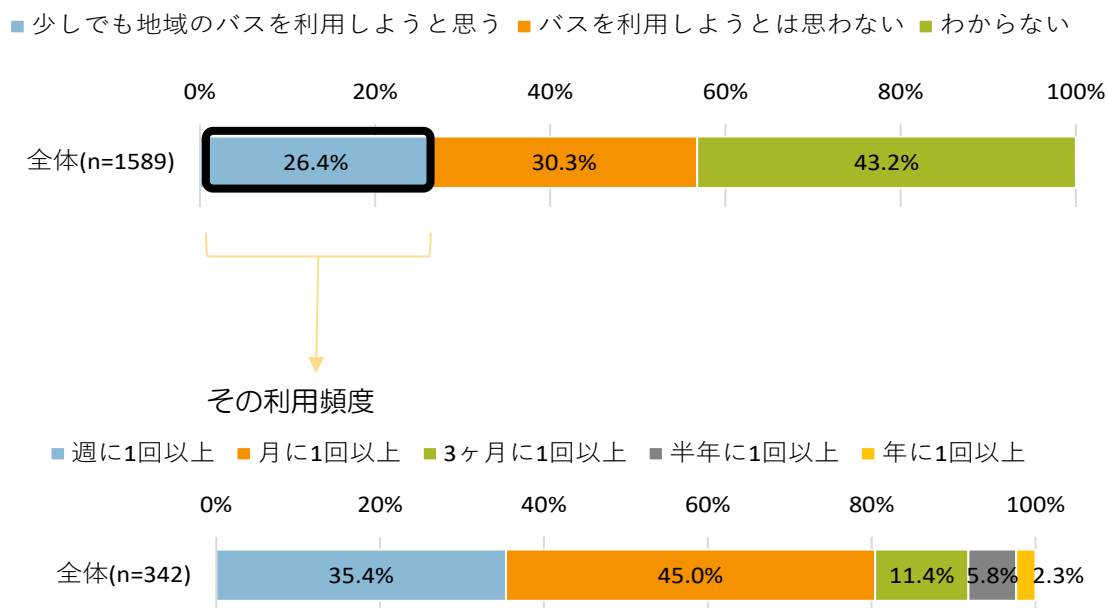
(5) 路線バスのサービス満足度

満足度※が高いのは、「⑧自宅からバス停までの距離」(3.6点)、「⑫車両の段差などバリアフリー対応」(3.4点)、「⑯感染症予防対策」(3.2点)となっている。反対に、満足度が低いのは、「①運行本数」(2.6点)、「②ダイヤ(運行の時間帯)」(各2.6点)、「③運賃」(2.5点)、「⑦最終便の時間」(2.4点)、「⑬屋根や椅子などバス停の待合い環境」(各2.7点)となっている。



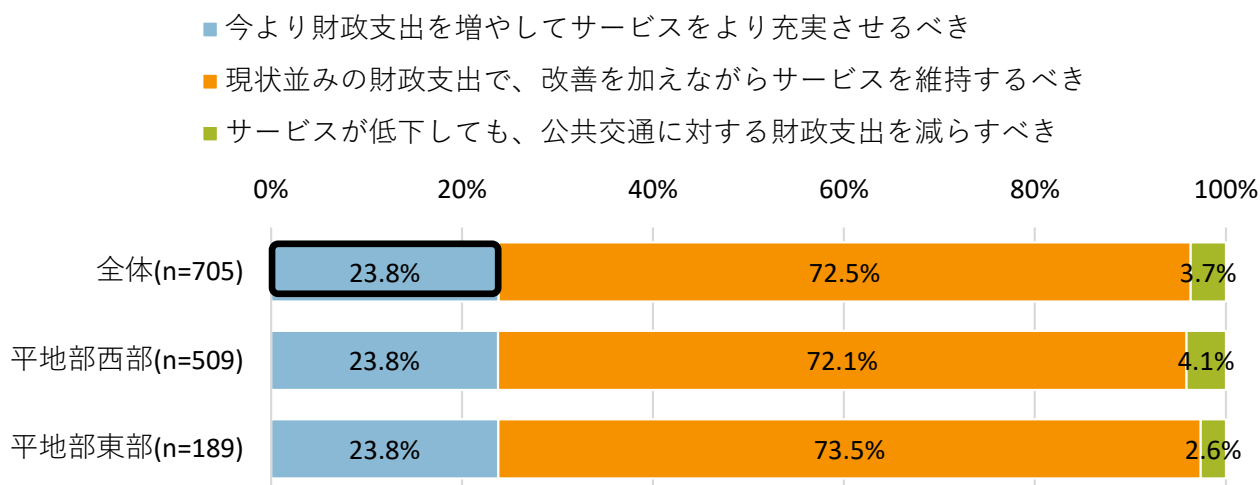
(6) バスの利用意識

地域のバスを将来に残していくため、「少しでも地域のバスを利用しようと思う」(26.4%)と回答した人の内、その利用頻度は「月に1回以上」(45.0%)が最も多い。



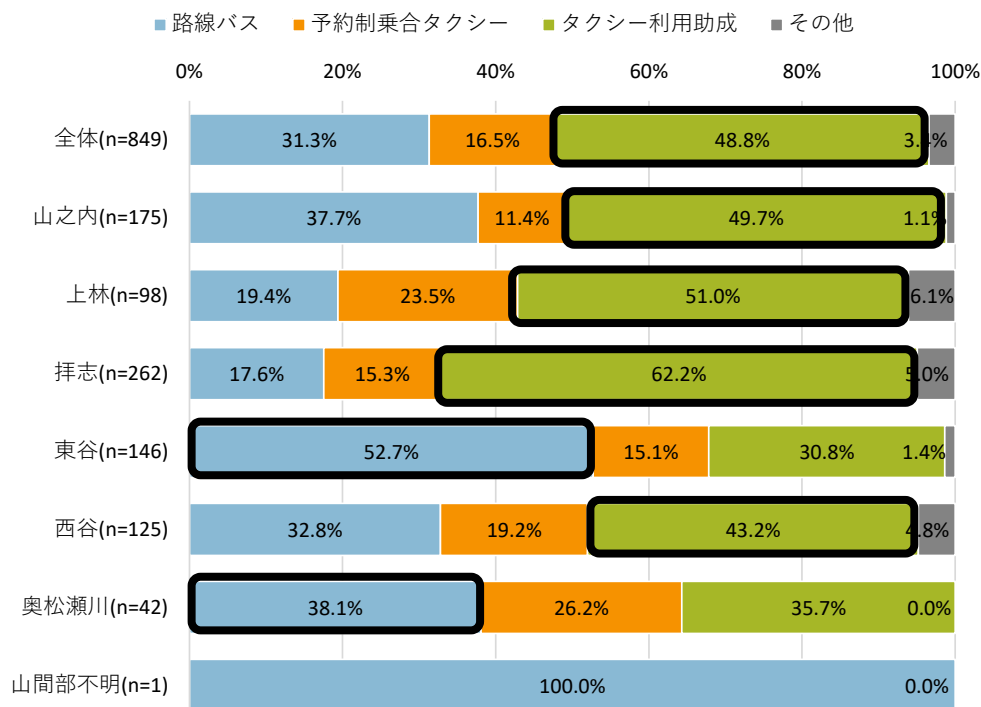
(7) 今後の移動サービスと財政支出についての意向【平地部のみ設問】

「現状並みの財政支出で、改善を加えながらサービスを維持するべき」(72.5%)が最も多い。平地部西部と平地部東部でその傾向にほとんど違いはない。



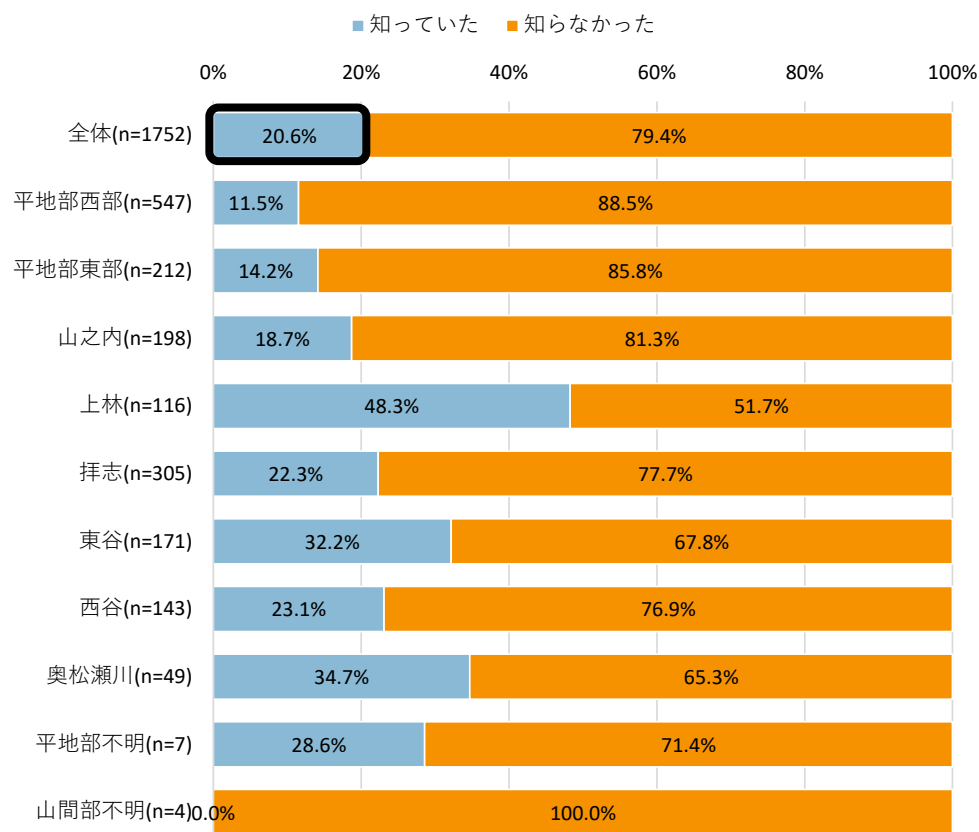
(8) 自分が住む地区に適した移動手段【山間部のみの設問】

山間部全体では、「タクシー利用助成」(48.8%)が最も多く、「路線バス」(31.3%)、「予約制乗合タクシー」(16.5%)となっている。地区別では、山之内、上林、拝志、西谷では「タクシー利用助成」の割合が高く、東谷、奥松瀬では「路線バス」の割合が高い。



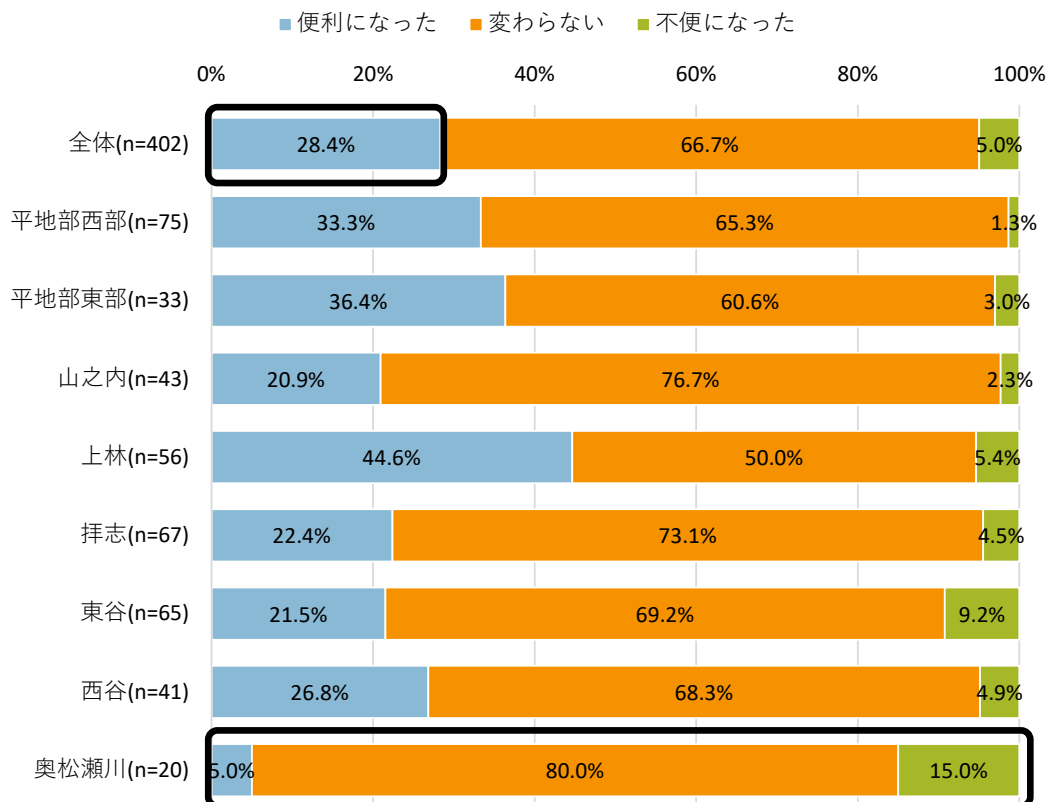
(9) 「東温市地域公共交通網形成計画」に基づく取組の認知度

路線バス体験教室、パーク&ライド駐車場整備、公共交通ガイド配布等の取組がなされているが、それらの認知度は 20.6%に留まっている。



(10) 公共交通の利便性向上についての評価

前項で「東温市地域公共交通網形成計画」に基づく取組について「知っていた」と回答した人の内、「便利になった」(28.4%)より「変わらない」(66.7%)の割合が高い。特に上林、平地部西部、平地部東部で「便利になった」の割合が高い一方で、奥松瀬川は「便利になった」が5%と低く、また「不便になった」が15%と高い。



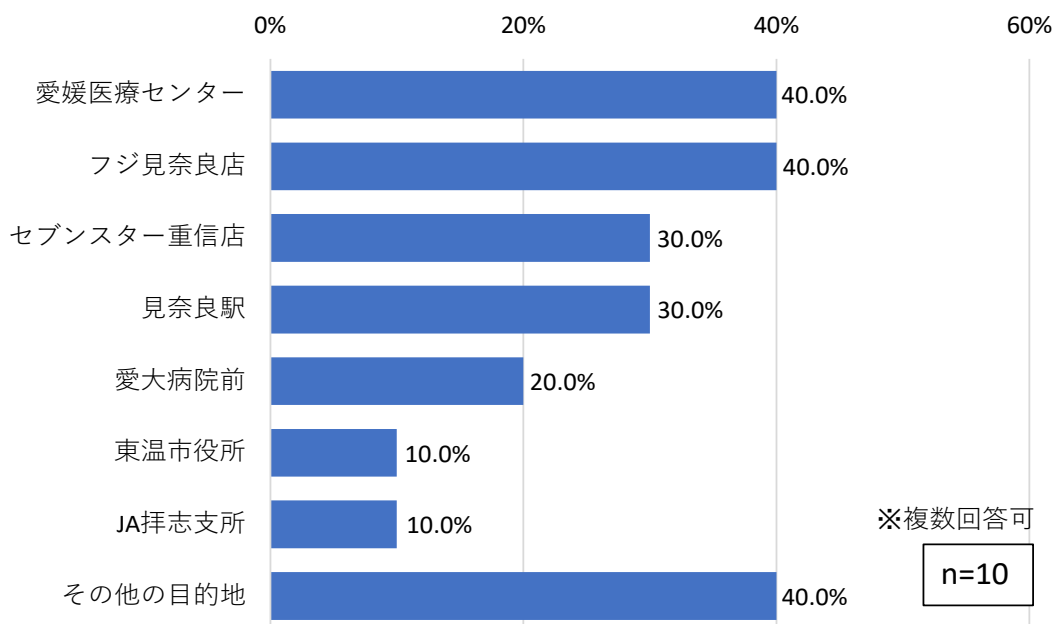
2 予約制乗合タクシー「上林線」アンケート調査結果に基づく住民の意向や利用実態

予約制乗合タクシー「上林線」の利用状況やニーズと、サービスに対する評価等を把握するため、利用登録者を対象とするアンケート調査を令和2（2020）年11～12月に実施した。

種別	今年度利用あり	今年度利用なし
調査対象	利用登録者の内、今年度（2021年10月時点）上林線の利用が1回以上ある世帯 20世帯	利用登録者の内、今年度（2021年10月時点）上林線の利用がない世帯 93世帯
配布物	調査票（A4両面） 返信用封筒（切手貼付済）	調査票（A4両面） 上林線のちらし 返信用封筒（切手貼付済）
調査期間	令和2（2020）年11月下旬～12月上旬（12/4〆切）	
調査方法	郵送配布・郵送回収	
回収数（率）	12件（60.0%）	62件（66.7%）

（1）よく使う停留所またはよく行く目的地（今年度利用ありの方）

平地部に存在する病院、スーパーと見奈良駅が多く挙げられた。

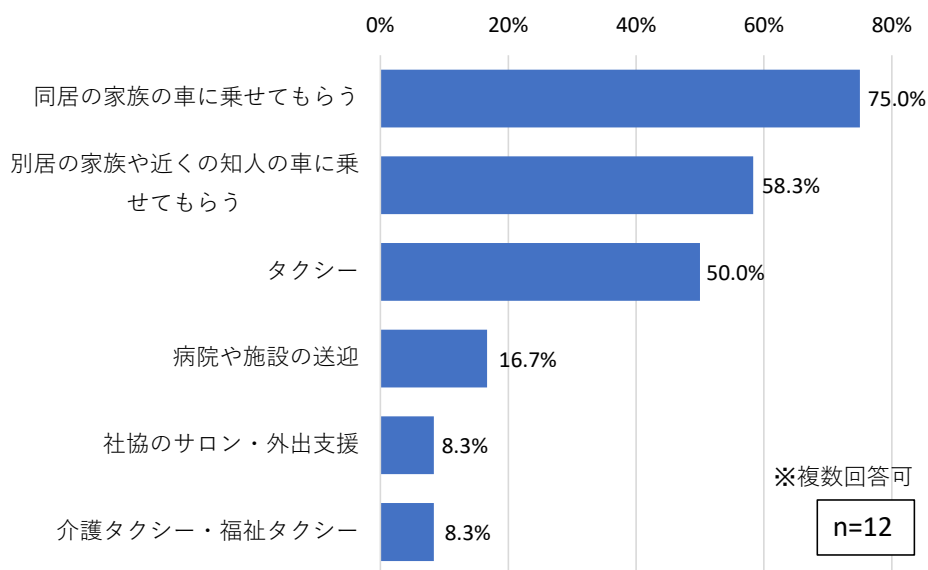


（2）要望や意見（今年度利用ありの方）

帰りの便について、「時間が合わない、待つ時間が多い」などの意見や、「平日全日利用可能にしてほしい」「大きい買い物もしたいのでショッピングセンターにも行きたい」などの要望が挙げられた。

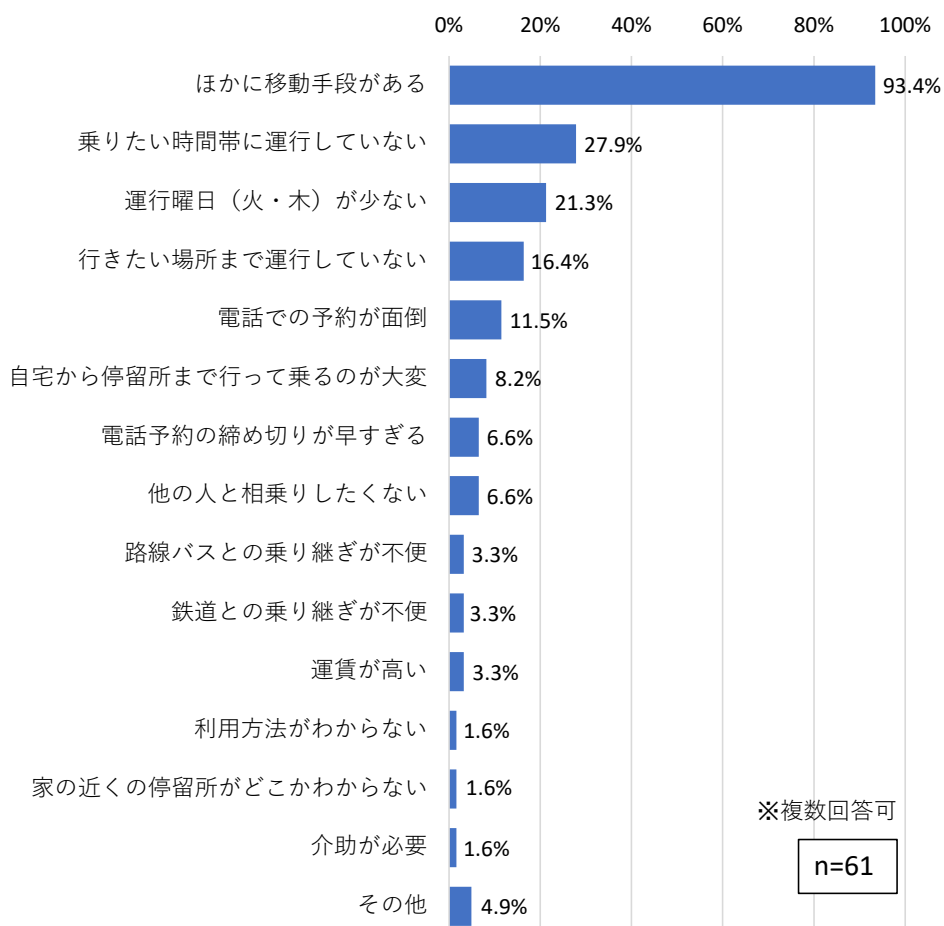
(3) 上林線を使わないときの移動方法（今年度利用ありの方）

「同居の家族の車に乗せてもらう」（75.0%）、「別居の家族や近くの知人の車に乗せてもらう」（58.3%）、「タクシー」（50.0%）が多く挙げられた。



(4) 利用しない理由（今年度利用なしの方）

「ほかに移動手段がある」（93.4%）、「乗りたい時間に運行していない」（27.9%）、「運行曜日が少ない」（21.3%）が多く挙げられた。

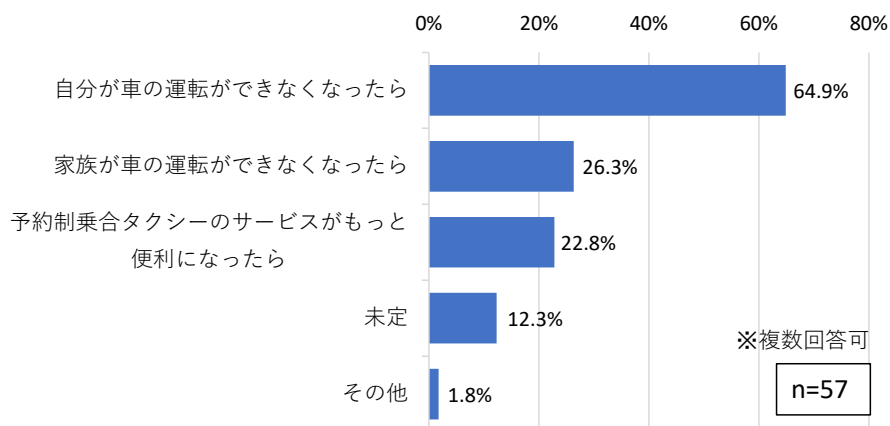


(5) どのようなサービスになったら利用するか（今年度利用なしの方）

「帰りの時間が合わない」「便数を増やしてほしい」「土日の運行をしてほしい」といった意見が挙げられた。

(6) 今後利用する予定（今年度利用なしの方）

「自分で車の運転ができなくなったら」（64.9%）が多く挙げられた。



3 公共交通に関わる関係者の現状・意見・意向等

東温市の公共交通に関わる関係者に対し、公共交通の現状や今後についての意見・意向を伺った。

<鉄道事業者>

- 利用者は定期券利用が約 55%、定期外利用が約 45%。
- コロナ禍による利用者の減少で大幅な減収となっており、これが継続するようなら利用実態に合わせたダイヤを検討する必要がある。
- コロナ禍による減収への対応、少子高齢化への対応、施設のバリアフリー化や修繕等の対応があり、行政との連携を考慮した事業運営を検討する必要がある。
- 「伊予鉄 MaaS」として、令和 2 年 8 月から乗換検索サービスを利用した電子チケット販売を開始。

<路線バス事業者>

- IC カード利用者が全体の約 50%。
- 東温市に係る路線の車両は、8/12 両（東温市内線：河之内線、松瀬川線、滑川線、井内線 2/2 両、川内線 3/7 両、森松・横河原線 3/3 両）がノンステップ車両で、いずれの車両も 10~15 年程度で更新が必要。
- 東温市内線は、利用実態等を踏まえ見直しの検討が可能。
- 川内線は、ダイヤや運行時刻、運行経路等の変更が必要となる可能性あり。
- 森松・横河原線は利用が少ないものの学生の利用もあるため、継続のための方策を検討する必要がある。
- 運転士確保のため、運転士の雇用条件や職場環境の改善に継続的に取り組んでいる（今後も継続）。
- 運転士不足が従来からの問題であり、利用実態や運転士数を考慮した見直しを検討することもある（路線によっては地域が自主的に費用や労働力などを負担し、それに行政が協力して地域の移動手段を確保する方法を検討してほしい）。
- 新型コロナの影響で過去にない利用者の減少が見られ、間接部門の経費節減など経営努力を実施しているが、新しい生活様式の中で需要が回復せず、利用促進や補助金の増額等により収支状況の改善ができない場合、撤退を含めた対応を取らざるを得ない。
- IC カードやバスロケ等の IT 機器の維持・更新費用が負担となっている。
- バス運行情報の共通フォーマットである GTFS データの整備は、対応を検討中。

<予約制乗合タクシー運行事業者>

- 導入時に市が地元説明会を開催したり、区長さんが率先して利用するなどして利用促進に努めてきたが、その後継続して利用増加にはつながらなかった。
- 主な利用層は高齢で移動手段が無い方。
- 帰りの便まで待てない人は、タクシーを利用する。
- 上林地区内の乗降場所はチラシや市の HP にも掲載されておらず、広報に問題あり（登録者には市が停留所図を配布）。
- 令和 2 年 2 月時点で登録者は 219 人だが、利用経験者は 22 人。

<東温市タクシー連絡協議会>

- 市内タクシー事業者の保有車両数は 4 社で計 24 両だが、各社とも新型コロナの影響による利用者の減少で稼働車両数を減らしている。
- 買い物や通院目的の利用者の中で、介助が必要な人はヘルパーが対応可能な時間に合わせるため時間指定が多く、かつ同じ時間帯（8 時～13 時）に集中するため予約を受けられないことがある（13～17 時頃は比較的すいている）。
- 運転士が常に不足していて、求人を出してもなかなか応募が無い。
- タクシー利用助成については、導入されたら需要も増えるため、各社とも車両の稼働を増やすことができる。

<東温みんなの公共交通を考える会>

- 路線バスを用いたツアーの主催、なかよしタクシー（タクシーの相乗り）の運営等を行っている。
- 路線バスツアーは会の HP や市の広報紙、愛媛新聞に情報を掲載しており、すぐに定員が埋まる。
- 目的地は源太桜、白猪の滝、滑川溪谷、川内の断層などで、参加者は 20～25 人／回（リピーターと新規が半々程度）。
- ツアー当日は伊予鉄バスの協力により、普段（30 人乗り）より大きな車両（50 人乗り）で運行される。
- なかよしタクシーは、タクシー事業者と時間貸し契約し、利用者は運転士に直接料金（定額：乗車時間と乗り合わせ人数で決まる）を支払う仕組み（利用者からの料金収入で貸切料が足りない場合は会が負担）。
- 近くに住む子の送迎や共助の体制があり、上林地区や川内地区の高齢者は実は移動にあまり困っておらず、本当に困っているのは田窪団地、播磨団地、志津川団地、樋口などの独居高齢女性だったりする。
- 食料品の買い物は移動販売や宅配を利用すればよいが、衣類や進物を選ぶ時は実店舗で選びたいという思いがあるようだ。